

はるかせ書店 (特定非営利活動法人 アンガージュマン・よこすか)

特定非営利活動法人アンガージュマン・よこすかは、不登校、ひきこもり、ニートといった若者と周囲の方々が共に社会参加を目指す法人で、現在、不登校やひきこもりの人の居場所の提供、小学生から高校生の学習サポート、相談・カウンセリングや就労支援を行っている。

不登校やひきこもりの方に対する支援プログラムの一つに、販売士3級資格の取得と実際の就労訓練によって自立を促す「キックオフプロジェクト」があり、その研修の場、研修修了者の就労体験の場として、同法人が運営しているのが「はるかせ書店」である。

はるかせ書店のオープンは2006（平成18）年5月。もともと市内の別の商店街で障害者福祉関連の書籍を扱う書店を経営していたオーナーから、アンガージュマン・よこすかの若者の研修先として書店を使ったらどうか、という申し出があり、オーナーや書店取次業者の協力、神奈川県「かながわボランティア活動推進基金21」の助成を受け、現在の場所に新装開店した。

品揃えについては、障害者福祉関連書籍のほか、書店が大通りに面していることもあり、雑誌を充実させている。また、絵本や文庫本のほか、福祉作業所で作られたマスコット人形なども店頭と並ぶ。

書店には現在、キックオフプロジェクトを修了した若者2名と、アンガージュマン・よこすかの職員2名が勤務し、書籍の仕入れから、販売、レジといった業務全般は、キックオフプロジェクト

を修了した若者同士が話し合っって自主的に行い、職員はその業務を補完している。書店業務は、他の販売業と比べて、客との値段交渉をする必要がなく、肉体的重労働ではないことなどから、「ニートやひきこもりの若者が仕事を始めやすいのではないかとアンガージュマン・よこすかでは考えている。

はるかせ書店での実務は、半年もあればおおむね身につくという。アンガージュマン・よこすかでは、「長くて1年半ほどはるかせ書店に通ってもらえれば良い」とし、実務経験を積んだ若者がはるかせ書店を卒業した後は、自分の好きな道に進んでもらいたいとしている。ニートやひきこもりの若者が「学校を出て勤め人になること＝就職」と考え、それが出来ずに悩んでしまうことに対して、商店街で様々な仕事を見て体験することを通じて、「色々な働き方があるんだ」と広い視野で見られるようになることが重要であると考えている。

はるかせ書店の経営には、地元の上町商店街を中心とする「地域の理解」が欠かせない。もともと、商店街の理事会は懐が深くアンガージュマン・よこすかの設立も満場一致で受け入れた。「若い人に率先して商店街を盛り上げてもらいたい」という考えから、商店街の人達の若者達に対する理解も進み、キックオフプロジェクトが修了した若者の就労体験を受け入れてくれる店舗も出てきている。